

秦 竜也さん（平成20年卒）

弁 護 士

◇お仕事の内容を教えてください

吉岡・小野総合法律事務所（東京都港区所在）に勤務。
法律事務所で弁護士として執務し、裁判内外の手続きを利用しながら、依頼者の様々な相談や事件について相談を受けています。

ちなみに、弁護士というのは、ドラマで見るような裁判ばかりしているわけではなく、裁判所に行かない日も多くあります。驚かれる方も多いですが、実際の裁判の時間よりもその準備に多くの時間を使います。何事も準備が大切ということです。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

弁護士という仕事は、依頼者が居てはじめて成り立つ仕事です。悩みや相談を抱えた依頼者の問題を解決して、依頼者の満足した顔を見るときに、私も充実感を覚えます。

今後も、どのような事件であっても、より良い解決ができるように日々邁進していきたいと思います。

◇将来の夢を教えてください

弁護士として「中堅」になったので、これまでのように幅広い業務に対応できることを超えて、自分だけの強み、専門分野を培っていききたいと思います。

今後も、何事も挑戦し続ける姿勢は大切にしたいと思っていますので、弁護士業以外の自分の力を試すことのできる新たな物事にチャレンジしていきたいです。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

高校生活では、自動車科に入学したこともあり、授業や実習、部活の練習など分野は違いますが、様々な物事に取り組んでいました。

私は、スポーツ特待生で入学したこともあり、生活は部活動中心で、日々練習を行っていたことが記憶に残っています。

学校行事では、球技大会や文化祭の思い出が強くあります。クラスで団結して、各種競技や出し物に取り組んだことが良い思い出です。

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

成功は与えられるものではなく、掴み取らなければなりません。

私は、当時、生まれも育ちも、平凡なただの高校生でしたが、（運よく）弁護士として充実した生活することが出来ています。恵まれた才能があったわけでも、人生を変える大きなきっかけに遭遇したわけでもありません。

現在、弁護士として仕事を行ってられるのは、目標に向かって目の前の困難をひとつずつ乗り越えいった結果だと思います。

（※次ページに続きます）

(※前ページからの続き)

何を伝えたいかというと、成功を得るためには、自ら一歩踏み出して、目標に向かって進み続けるという不断の努力が必要ということです。そこには特別な才能や与えられた能力も関係ありません。

これから夢や目標に向かって進んでいく方々も多いと思います。時には辛い時や厳しいことがあります。決して諦めず自分が思う以上の努力を続けて成功を掴み取って下さい。

偉そうなことを言いましたが、私自身もなにかを成し遂げたわけではなく、発展途上の段階です。私も世のため人のため、より良い社会を目指して、不断の努力を続けていきます。

☆取材後記

自動車科に入学され、スポーツ特待生としての3年間を過ごされた秦さん。

その後に専修大学法学部に進学し、卒業後は中央大学法科大学院に進学。そして超難関の国家試験である司法試験に合格され、弁護士として現在ご活躍中です。

まさに秦さんのメッセージにある「目の前の困難を一つずつ乗り越えていった結果」としての弁護士のお仕事、だということが分かります。

生徒の皆さんには、秦さんの「目標に向かって進み続けるという不断の努力が必要。特別な才能や与えられた能力も関係ない」との言葉から、自分の可能性が無限大であることを感じ、何かに向けて歩み始めて欲しいです。(担当：Y)